

「メダカの卵と稚魚をもらおう(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

水草の葉や、ホテイアオイの根に産み付けられたメダカの卵は、慎重に採取する必要がある。キンギョモなどの水草の場合、卵のある枝を全部切らなければいけない場合もあるが、ホテイアオイの根の場合は、一部だけ切れば良いので、効率が良い。



この根にも ← の位置に、卵が1個産み付けられている。その根を注意深く、ハサミで切る。子どもはこういう細かい作業も、器用にやっつけてのける。



根から単離してしまった卵や、水槽の底に沈んでしまった卵は、一旦水の入ったきれいなビーカーに移し、それを個々の容器に移したほうが良い。写真では ← の位置に卵が1個見える。この方法だと、確実に容器に卵が入る。容器に入れる水は、水槽の水が一番良いのだが、不足することが多いので、バケツ2~3個に、汲み置き水を作っておいたほうが良い。ただ個々の容器には、水槽の緑の水も、少し足したほうが良い。



今回は、子ども1人あたり「卵2個、稚魚2匹」を目標にした。稚魚も卵も非常に小さいので、大きなペットボトルではどこにいるのか探せない。このR1、またはLG21(いずれも乳酸菌飲料)の容器は、誠に都合が良い。中身が少し拡大されて見えるのも良い。



この子どもの容器にも、ホテイアオイの根についてのメダカの卵(←)が見える。まずは、自分が採った稚魚や卵がちゃんと入っているかを確認することが大切だ。



卵は動かないので採取は簡単だ。しかし、稚魚はそうはいかない。まだ泳ぐ能力は低いとはいえ、動き回るので、なかなかスポイトに入らないのだ。